

第107回日本病理学会総会共催セミナー

【共催】第107回日本病理学会総会
CAPサーベイ日本事務局(株式会社CGI)



COLLEGE of AMERICAN
PATHOLOGISTS

テーマ:

「我が国におけるゲノム病理診断の展開:国際規格の必要性とCAPへの期待」

セミナー番号:

ランチョンセミナー3-C

日時:

2018年6月23日(土)12:20-13:10

場所:

C会場(さっぽろ芸文館 3F 蓬莱の間)北海道札幌市中央区北1条西11丁目

座長:長村 義之 先生 (日本病理学会元理事長)

演者:マーク・コルビー (CAPサーベイ日本事務局)

演者:長村 義之 先生 (慶應義塾大学医学部客員教授、
国際医療福祉大学大学院特任教授、
日本鋼管病院病理診断科部長、
CAP Qualified Inspector)

日常の病理診断の現場においても、形態学的な病理診断に加え、必要に応じて遺伝子病理学が施行されることになるが、病理検体の取り扱い、標本作成の手順、遺伝子解析技術は最初からゲノム病理学を視野に入れたものでなくてはならない。それに伴い、国際標準規格の必要性もまた議論されるべき重要なトピックとなっている。本セミナーの構成は以下の如くとなる。

まず、長村義之先生に日本のゲノム病理学の現状、ゲノム病理学のチャレンジおよび標準化の必要性、諸外国との比較を交えて今後の展望・課題について述べていただく。次に、マーク・コルビーからCAPおよびCAP認定の紹介、ゲノム解析の外部精度管理プログラムとバイオバンクの紹介をさせていただきます。